

県内総合

建設情報 *Iwate*

ニュースの お知らせ

〒020-0015 盛岡市本町通3-9-33
本社編集部へ
TEL (019) 623-8201
FAX (019) 623-8204

野場地区の消防団拠点施設

軽米町 建築工事の入札は8月予定

軽米町は、野場地区にある消防団拠点施設を集約し、新しい拠点施設を建設する。このほど武田菱設計に設計業務を委託した。設計の中で施設の詳細を固め、8月上旬の発注を目指す。

町の北西部に当たる野場地区には、二つの消防拠点施設があり、消防団の拠点とコミュニティセンターの機能を有している。両施設ともに老朽化・狭隘化が進行していることに加えて、人口減少に伴い団員が減少していることから、同様の機能を持つ施設を1カ所に集約することで、効率的な施設運用を図る考え。

建設場所は同町晴山15-196-2地内の町有地。新しい施設は木造平屋建てで、消防車の車庫、消防団員の詰所に加えて、集会場を設置して地域コミュニティの活性化に資する機能を持たせる考え。施設の詳細な規模については、今後の設計の中で決定していく。

町では2025年



野場地区消防団拠点施設の建設予定地

度一般会計の第7号補正予算に、野場地区消防団拠点施設の設計監理業務委託料として2011万7000円、工事請負費として8498万6000円を計上。このほど、武田菱設計に業務を委託した。今後のスケジュールを見ると、8月上旬に入札を行い、秋頃の着工、年度内の完成を目指す。

今年度はB棟を改修 ＝奥州市・衣川ふるさと自然塾＝ 14日に指名競争入札

奥州市は、衣川下大森の衣川ふるさと自然塾内のコテージについて改修を進めている。経年劣化などによる傷みが見られることを受け、改修工事を実施しているもので、6棟のうち3棟の改修を25年度に行った。26年度は、残る3棟の改修を進める構えで、14日に指名競争入札で施工業者を選定する予定だ。

衣川ふるさと自然塾には、宿泊棟となるコテージやケビンをはじめ、オートキャンプサイトやテントキャンプサイト、多目的広場、炊事場などといった施設が設けられている。青少年を中心とした対象者に、野外活動や環境教育の場を提供しているほか、森林による癒しの空間を提供し、青少年の健全育成を図る施設となっている。

今回改修を計画するコテージは6棟あり、いずれも定員が10人。A棟、B棟が各3棟で構成される。いずれも木造2階建てで、2000年に建築された。延べ床面積はA棟が85.70平方メートル、B棟が89.42平方メートル。1階がリビングなど、2階が寝室などの間取りとなっている。

いずれも経年劣化が進んでおり、施設の魅力向上などを図ることを目的に改修を計画。24年度には、アトリエ工・安部建築計画の担当で設計を進めた。

施工には25年度から入って

り、同年度にA棟3棟を太田建設の担当で改修した。屋根や外壁、軒天、デッキ基礎、デッキ、建具といった箇所の改修、外壁改修に伴う電気設備と機械設備工事を実施した。

今年度は、残るB棟3棟の施工を進める。施工内容は概ねA棟と同様だが、ウッドデッキに関して、A棟では基礎から改修を施したが、B棟では板張りの交換程度となる見込み。

ただ、屋根に関して、A棟はフラットな形状となっているのに対して、B棟は出窓がある形状となっていることが影響してか、A棟より傷みが激しい状況。このこと

から、屋根の改修はB棟の方が大掛かりになると想定している。現状の確認し、改善策を検討した上で、屋根の改修を進める考え。

工事期間には、120日間を予定する。施工中、コテージは利用できなくなる。



改修を計画するコテージB棟

現地で2工事が進む ＝県南振興局林務部・黒滝線＝ 1件程度工事発注へ

県南広域振興局林務部が整備を進める奥州市衣川の森林管理道黒滝線は、前年度に発注した法面工事や開設工事が現地で進められている。今年度は1件程度の工事を発注する構えであり、着実に進捗を図っていききたい考えだ。

黒滝線は、衣川の黒滝地区で黒滝温泉や南股地区センターなどが近隣に位置する位置が整備地。林道上立沢線を起点に整備を進めており、全体延長3728メートル、幅員4.0（3.0）メートルの砂利道となる路線を築造する。総事業費は、現時点で3億円と試算している。

事業には19年度から着手し、22

年度から工事を開始。起点側を1工区、終点側を2工区と位置付けて進めている。

施工は、終点となる南股地区センターなどの立地する側から手を掛けた。終点側では、23年6月の豪雨で被災した箇所が生じたことから、応急復旧も含めた施工を実施。地すべりがあったことから、解析や観測を進められた。

25年度は、夏場に2工区の法面工事を発注。26年7月末までの工期で、暫定延長として80メートル程度の範囲でのアンカー工やボーリング暗渠工、鉄筋挿入工などが進んでいる。

年度末には、1工区の開設工事を発注しており、実質26年度の施工として作業を進める。発注時の数量を見ると140メートル間、林道土工一式、法面工568.4平方メートル、擁

壁工34メートル、排水構造物工90メートル、防護柵工35メートル、道路付属施設工一式を、241日間の工期で進めていく。

今年度発注を予定する工事の内容については、現在検討している段階。進捗状況から見て、2工区での開設工事になるのではとしている。2工区の開設工事となった場合、施工内容としては擁壁工などを想定している。

黒滝線については、既存の作業道はあるものの、大部分を開設により整備する計画。利用区域面積が99％を想定している。

路線の利用区域の森林面積は、人工林が44％を占め、県平均の42.3％を上回っているものの、林内路網の整備が遅れ、間伐など森林

整備の推進に支障となっている。地元などからは、以前より森林管理道の整備が要望されている。

林内路網の幹線となる林道の整備により、木材生産の低コスト化や森林整備の効率化を図ること、間伐材などの木材生産量の増加、水源涵養、県土の保全などの森林の多面的機能の持続的な発揮が期待される。加えて、災害時の迂回路としての機能も期待できるとして、整備を進めている。

事業評価上では、26年度までの事業期間を設定。被災したことなどを踏まえて、事業期間や総事業費は今後変更になることが見込まれている。

安代地区コミュニティセンター LED化工事を公告

＝八幡平市＝

八幡平市は26年度、安代地区のコミュニティセンターのLED化工事を実施する。11日付で「コミュニティセンターLED化工事（安代地区）」を公告した。（関連7面）

主な工事内容は、各施設における照明器具のLED化に係る更新と既存照明器具の撤去処分。館市と田山を7月、浅沢と畑を8月に完了させ、細野に8月後半から取り掛かり、9月上旬の完成。同月28日の引き渡しを予定している。

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



自動車避難の是非

岩手大学地域防災研究センター教授

福留 邦洋

先月4月20日の三陸沖を震源とするマグニチュード7.7（暫定値）の地震では青森県階上町で震度5強を観測し、津波警報が発表されました。この地震では、2回目となる北海道・三陸沖後発地震注意情報も出されています。

昨年7月30日のカムチャツカ半島沖の地震、12月8日の青森県東方沖の地震と津波警報の発表が続いていますが、夏季の暑さ、冬季深夜の寒さ対策など避難場所、指定避難所の環境整備に加えて、大きな問題となったのが自動車による避難行動でした。各地で交通渋滞の発生が報告されています。東日本大震災の教訓として、津波からの避難は原則徒歩避難とされていますが、なぜ車避難の問題は続いているのでしょうか。

考えられる一つが、避難場所としての自動車です。ガソリンや充電が満たされている限り、家族やペットだけで避難生活をすごすことができ、不特定多数の地域住民などと一緒になる指定避難所に比べてプライバシーが確保できます。冷・暖房、除湿など空調が自分好みで設定でき、カーラジオで情報が入手可能です。自宅との往復、買物など行動範囲や機会も広がります。車中泊では無理な姿勢から起る原因するエコノミー症候群の発症が懸念されますが、適度な運動など健康に留意すれば避難所の代替手段になりえます。

二つ目は身近な移動手段、資産としての自動車です。職場への通勤、通院など日常生活における移動手段として車を利用する割合が、東京などに比べて地方は圧倒的に高くなっています。岩手県における世帯当たりの自動車保有状況は1.92台（令和5年度末、国土交通省資料）、全国平均（1.42台/世帯）を大きく上回っています。現役世代の家族では、大人の数か車の台数になっている家も少なくありません。このことは車が身近な資産でもあることを認識させる背景にもなっています。台風の接近など事前に災害発生が懸念される際、世帯で3台の自動車を保有する家族は、事前にそれぞれの自動車から避難場所へ移動した後、1台に同乗して自宅へ戻るといっ

た行動がみられました。昨年のカムチャツカ半島沖地震の際、三重県では自動車を退避場所へ移動させようとしていた途中で運転を誤って転落し、犠牲者が発生しています。

三つ目はハザードマップ等における津波浸水想定区域の拡大です。日本海溝・千島海溝付近を震源とする巨大地震の被害想定が2021（令和3）年12月に国から公表され、津波の最大浸水想定区域が東日本大震災の浸水区域を上回る事例が散見されます。浸水区域の拡大は徒歩による避難では時間内に避難場所まで到達できない避難困難地域の拡大にもつながっています。徒歩避難が困難な住民が避難場所まで避難できるためには徒歩避難で避難場所まで到達できる住民などが確実に徒歩で避難することが求められているのです。

また、浸水区域を通過する自動車（通過交通と呼ばれる地域外の車）を減らすことは重要です。しかし、高速道路では地震発生後に行う安全点検（緊急点検）のために通行止め、走行中の自動車は路肩などに駐車した後、基本的には最寄りの出入り口から流出、各自の判断で避難することになります。高速道路出入口からつながる交差点や主要幹線の信号機は県警本部の指令所から中央管制できるものにはなっていません。警察官が手動操作により信号機の制御盤のスイッチを切り替えることにより浸水区域方面へは常時赤信号にできる防災対応型信号機も福島県沿岸の一部地域で止まっています。2014（平成26）年9月に施行された改正道路交通法で認められるようになった信号機のない環状交差点（ラウンドアバウト）もごく一部の地域へ導入されたにすぎません。

さまざまな関係機関による協議に基づくルールの見直し、日常の啓発活動、避難訓練による検証など検討を積み重ね、根拠を示すことが自動車避難の是非を判断するためには不可欠と考えます。

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。

さく井・温泉掘削 井水・温泉設備 地中熱 地盤調査

株式会社 長内水源工業
OSANAI
調査・開発工事からメンテナンスまで
本社 滝沢市鶴岡笹森10-13
TEL (019) 684-2661 内 FAX (019) 684-2664
http://www.osanai.co.jp

一般建築・鉄骨・橋梁塗装

一般社団法人日本塗装工業会会員
岩手県塗装工業組合会員



株式会社 **富士塗装**
盛岡市みたけ4丁目33-15 TEL (019) 641-4431 内
FAX (019) 641-4476

●植栽 ●庭園樹 ●造園設計・施工 ●土木工事一式 お気軽にご相談下さい
盛岡市指定下水道工事店
株式会社 **上の島**
本社 盛岡市太田1-2-47 電話 658-1100 内

技術は人を熱くする 設計・施工・メンテナンスまでトータルサポート

visit
訪問

survey
調査

BEST PLANNING & SUPPORT by OYAMADA ENGINEERING inc.

オヤマダエンジニアリングの強みは一貫した総合力。
施工からメンテナンスまで、お客様のあらゆるご要望に応じ
最適な設備を提供いたします。

support
維持・補修

plan
設計

construction
施工

presentation
提案

官公庁、民間企業の設備工事全般
ボイラ・空調・給排水衛生・揚水
および排水ポンプ他

省エネにつながるベストな提案
3D画面でわかりやすく説明

高い技術力と安全な施工
お客様に寄り添った対応

オヤマダエンジニアリング株式会社

本 店 〒020-0839 盛岡市津志田南三丁目7番77号
TEL 019-613-7036 FAX 019-613-7037
流通センター 〒020-0891 紫波郡矢巾町流通センター南一丁目5番11号
TEL 019-638-1216 FAX 019-638-1931
秋田営業所 〒010-0946 秋田市川尻総社町7番5号
TEL 018-863-8570 FAX 018-863-8615
仙台営業所 〒984-0831 仙台市若林区沖野6丁目24番1号 七町プラザ101号
TEL 022-352-4331 FAX 022-352-4341